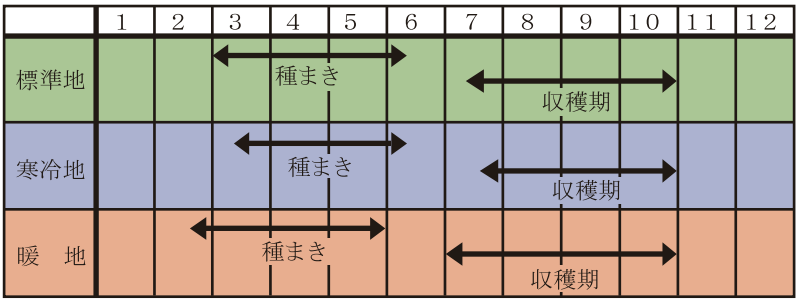
とうがらしの育て方

とうがらし … ナス科　　原産地 … 熱帯アメリカ

コロンブスによってヨーロッパに伝えられ、わが国へは16世紀に渡来しました。
辛み用の野菜で、江戸時代から栽培され、多くの品種が作出されています。
いまや日本人の食生活には欠かせない野菜です。

作り方

■作業年間カレンダー



■品種

代表的な品種には、乾燥した果実を利用する鷹の爪や八房、タバスコなどや、未熟な果実や葉を食用とする伏見辛、日光とうがらしなどがあります。

■栽培条件

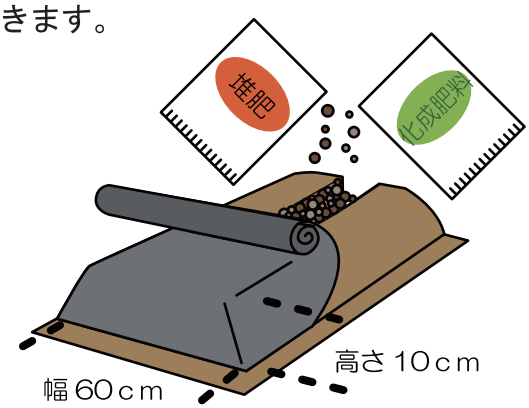
生育適温が25～30℃と高温性のため、できるだけ保温や加温して発芽・育苗します。
植えつけは、暖かくなってから行うことがポイントです。
酸性に弱いので、酸性土壌ではかならず石灰を施し、よく耕してから栽培にとりかかってください。
連作障害が出やすいので、いちど栽培したところでは、少なくとも3年は栽培しないようにしましょう。

種まき・育苗

育苗箱に、4～5cm間隔で浅い溝を作り一列に種を蒔く、条まき（すじまき）をします。覆土は1cmくらいです。
28～30℃くらいに保温します。本葉が1枚のころ、4号ポットに植え替えます。
夜間の気温が、15℃以下にならないように保温してください。
花が1～2個、開花するまで育苗します。
大苗にして、じゅうぶん暖かくなってから畑に植えつけます。

土作りと畝作り

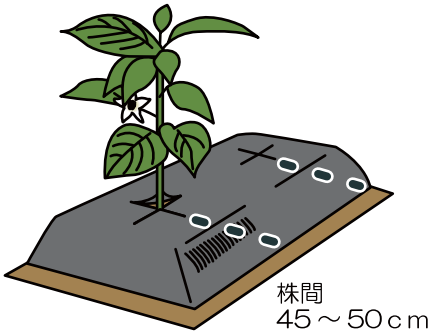
酸性土壌に弱いので、植えつけの2週間くらい前までに石灰を施し、よく耕します。
畝の真ん中に深さ20～30cmの溝を掘り、堆肥と化成肥料を入れて埋め戻します。
幅60cm、高さ10cmほどの畝を立てます。
十分に潅水し、黒色ポリフィルムでマルチングしておきます。



Copyright©KOMERI Co.,Ltd. All rights reserved.

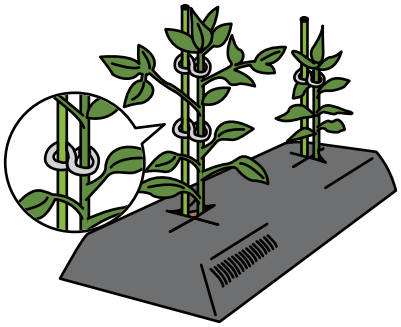
苗の植えつけ

本葉が7～9枚くらいに育ったころに植えつけます。
花が1～2個、開花しているかもしれません。
株間45～50cmに、マルチをかみそりで十文字に切れ目を入れ、植え穴をあけて、苗を植えつけます。
8号鉢に1株、65cmのプランターなら2株が植えられます。
植えつけの後にたっぷりと水を与えます。根が浅いので、水切れは禁物です。



整枝と追肥

下部からでた側枝は摘み取り、主枝と側枝2本の3本仕立てにします。
風で折れやすいので、支柱を立てて誘引します。
枝は8の字にしばって固定します。
果実がつきだしてから、2週間に1回ずつ、有機固形肥料または化成肥料を少量追肥します。



収穫

緑色の未熟果も食用として利用できますが、辛味が強いので注意してください。
真夏には、水切れさせないように毎日水やりします。
晩秋になって、果実が色づいて完熟したころ、株ごと引き抜いて収穫します。
軒下など雨のあたらないところで、つり下げて乾燥させます。

病害虫

1. アブラムシ類
   [症状] 体長2～4mmの小さな虫が、新芽や茎に群がって汁を吸います。
   [対策] ベニカX水和剤やダントツ水和剤、スターガード粒剤などの殺虫剤を散布します。
   小面積の散布には、ベニカベジフルスプレーやカダンセーフなどのスプレータイプが手軽です。

2. ハダニ類
   [症状] 葉の裏に寄生して汁を吸います。被害が進むと白っぽく絣（かすり）状になります。
   [対策] アーリーセーフやアーデント水和剤、カダンセーフなどの殺虫剤を散布します。

How To 情報
コメリドットコム「HowTo懇」には、DIY情報、住まいやくらしに役立つノウハウが満載です。

Copyright©KOMERI Co.,Ltd. All rights reserved.